

証言者番号 13：エンヴァー・トフティ

口頭供述のまとめ：2018年12月10日

この手術は、通常の手術より遥かに簡単なものでした。通常は他の部分を損傷しないように非常に気を遣いますが、この場合は、肝臓だけを傷つけないようにし、他のことは考えないでいいからです。

[証言者が Paper2 の Page2 を指す] こちらに心肺同時移植の 2 症例の報告があります。雲南省昆明市延安医院の心胸外科医の論文です。「雲南医薬」という医学誌に 発表されました。2008 年第 29 巻第 5 期と書いてあります。ぞっとする内容が示されています。手術手順が記載されています。「ドナーが手術室に運び込まれる。通常の手順に従い、全身麻酔がかけられ、安定剤も投与された。」ドナーが活着していることを示しています。活着しなければ麻酔は不要です。腎臓移植なら問題ありません。腎臓を一つ売って、お金を受け取り、家に帰れます。しかし、これは心肺同時移植です。ドナーは明らかに生存しており、ドナーがどうなったかは書かれていません。ドナーを手術室で殺害している証拠を隠すことを忘れたのです。

[証言者が 2 つ目のスライドを指す] こちらには、1 つの価格で 2 つの臓器を提供する、と書かれています。「1 つの価格で 2 つ提供」というセールは、臓器移植では行われるべきではありません。湖南省人民医院のビジネス促進のために、20 個の臓器を無料で提供しています。なぜ中国では 20 個の臓器を無料で提供できるのでしょうか？無尽蔵の臓器があることが示されています。このためには臓器を人体内に保存しておいて、人間を檻に閉じ込めておく必要があり、オンデマンドで臓器が摘出されるのを待っています。

2002 年の医療改革以前の中国の医療制度では、中国全体の雇用主は唯一の国家でした。小作農/農民以外の国民は国家のために働いています。国家以外に雇用者はいませんでした。さらに中国全体の鉄道制度は軍に所属しています。医師には二種類の制服がありました。病院で着用する白衣と、青緑がかった制服で、鉄道制度の職員として着用しました。軍隊のような制度で運営されていて、疑問を抱かず、命令に服従します。病院では、インターンから始まり、医師、副主任、主任と上がっていきます。当時、私は医師でした。直属の上司に二人の外科主任がいました。ウルムチの北にあり、当時は「鉄路局中心医院」と呼ばれていましたが、医療改革後は新疆医大の第五附属病院となりました。(臓器摘出は) 1995 年に行いました。上司の主任も処刑場に来て、最後まで指令を出していました。このようなことをしたことがなかったので、彼らは私の左側に立ち「ここを切りなさい、そこまで切りなさい」と全手術でどうすべきかを口頭で指導しました。

[犠牲者の民族に関しては] 全くわかりません。ウルムチ市の人々は肌の色や体つきが様々で、ウイグル人か中国人かモンゴル人かの見分けはつきません。ですから英国に移住してから(犠牲者の冥福を)祈るためにいろいろな場所に行きます。モスク、教会、寺院に行き、彼を追悼しています。このうちの1つが彼のための声を聞き届けてくれると思います。

[組織型と適合性について] 申しあげましたように、軍のような制度でしたので 命令されたら、一切口に出しません。命令に服従します。ですから何も言いません。このことについては一切語りませんでした。ただ、運転手は道を知っていたので、処刑場に行ったことがあったことが示唆されます。当時は大量の臓器狩りについて何も知りませんでした。実験をしていると思っていました。医師でしたが上司の主任にとっては下のランクでした。ですから深く知る資格はなかったのでしょうか。私の臓器摘出の前と後に何が起こったかは全くわかりません。

[鉄路局中心医院で移植手術が行われていたことの認識について] 当時、移植が行われていたという認識はありませんが、1990年に臓器を略奪する人々がいたことは認識していません。

[ウイグル人からの臓器略奪に関して] 次のような段階を踏んで結論に至りました。適合する臓器を4時間で見つけることができるということは、どこかの建物の奥深くに十分な在庫が保管されているはずですが、臓器はスーパーで買って後で食べる肉とは違い、最高でも保存期間は10時間ほどでしょう。ですから可能にするには、どこかに多くの人間を拘束することです。これらの多くの人間はどこから来るのでしょうか? 世界ウイグル会議の書記は2007年の演説で、1995年から2007年にかけて10万人のウイグル人が行方不明になっており、今でも居場所が分からないと発表しています。行方不明になったということは、この臓器バンクに入れられたのではないかと思います。イーサン・ガットマン氏、デービッド・マタス氏、デービッド・キルガー氏と大量の臓器狩りに反対する運動を始めてから、法輪功の問題は世界に十分に認識されるようになりました。中国では新たな臓器源が必要となり、2016年6月、「少数民族の健康改善」という名目で新たなキャンペーンを始めました。ウイグル人に対して血液検査を始めたのです。国家による健康診断は、その地区に病原不明な病気や伝染病があった場合に行われます。そのような病気の兆候はなく健康診断をする理由はありません。しかもとても高くつくものです。多くの中国人や他の少数民族も居住していましたが、ウイグル民族だけに行われました。オンライン上のデータベースを構築し、適合する組織をディスプレイから見つけられるようにするのではないかと思います。

2017年、このキャンペーンはDNAサンプルの採取となりました。テロ対策という名目で

DNA サンプルが採られました。DNA サンプルの採取は、口腔内からの採取で十分ですが、血液採取も行われました。ですから DNA サンプルの採取にみせかけて組織適合性検査を行っていると思います。最近、多数のウイグル人が拘束されました。臓器源がより都合よく確保されたと思います。収監されたら「自分」ではなくなり、外部の者も何も訊くことができません。

中国政権は常に見張っています。欧米に住んでいても同じです。中国本土出身の一人ひとりの頭の後ろに、目に見えない銃が突きつけられています。この銃は欧米人には見えません。何が起こるか分かっています。トラブルを避けるために沈黙を守るしかありません。

1990 年、インターンとして病院の外来患者を診ていました。地元の方は私のところに診察に来ました。ある日ティーンエイジャーの息子を連れてきた男性に、息子の臓器が失くなっているか診て欲しいと頼まれました。腎臓が盗まれているという噂が流れていたのです。傷は見つかりませんでした。すべて大丈夫ですと伝えました。しかしこの時期の 6 ヶ月間、外来で 100 名以上の子供を診ましたが、三人に U 字型の傷がありました。このような切り傷は腎臓摘出のときのみ用いられます。腎臓は奥深くにあるのでかなり深く切り込むのです。1990 年のことでした。ですから、多大な臓器収奪は 1990 年から始まっていたと確信します。

[ティーンエイジャーの年齢は?] おそらく 15 歳未満だったでしょう。

たまたま空いていたから[臓器の摘出に]選ばれたのです。以来、沈黙を守り、誰からも頼まれることはありませんでした。

間接的な脅しは受けます。[証言者は詳細を語らないことを選んだ]。